

9年間で育成する児童生徒の姿の設定

に向けた取組の工夫

〔岩見沢市〕栗沢中学校校区の取組

○ 工夫のポイント

- ① 基本理念に基づく「目指す子ども像」の設定
- ② 校内体制の整備と各学年段階に応じた「目指す子ども像」の具体化
- ③ 「目指す子ども像」の実現に向けた取組

- ・ 学校名（児童生徒数）
岩見沢市立栗沢小学校（113 人）
岩見沢市立栗沢中学校（84 人）
- ・ 導入状況（導入時期）
小中一貫型小・中学校（令和 5 年 4 月）
- ・ 施設形態（学年段階の区切り）
施設分離型（4－3－2）



栗沢小、栗沢中

取組の工夫の実例

① 基本理念に基づく「目指す子ども像」の設定

- ・ 地域が一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」を目指し、子ども・保護者・地域住民の視点で中・長期的な小中一貫教育の基本理念を策定した。
- ・ 学校運営協議会において、地域の思いや願いを把握するとともに、教育上の課題を共有し、基本理念を踏まえた「目指す子ども像」を設定した。（図 1）

小中一貫教育の基本理念と「目指す子ども像」

<基本理念>

- ◇ すべての子どもが「栗沢で学んでよかった」
- ◇ すべての保護者が「栗沢で育ててよかった」
- ◇ すべての住民が「栗沢で生きてよかった」

<目指す子ども像>

ふるさと栗沢を大切にすることを基盤に持ち、自らのキャリア選択に応じた考えを段階的に膨らませ、自らの意志と責任の下、世界的視野で新たなことに果敢に挑戦していく子どもたち

【図 1：基本理念と目指す子ども像】

② 校内体制の整備と各学年段階に応じた「目指す子ども像」の具体化

- ・ 小・中学校間の連携した取組を推進するため、学校経営方針について共通理解を図るとともに、小・中学校の全教職員が部会に所属し、児童生徒の実態や指導の在り方について、日常的に共有できる体制を整備した。
- ・ 9年間で育成を目指す子ども像を踏まえ、学年段階を3つのステージに区切り、それぞれの段階における「目指す子ども像」を具体的に設定した。（図 2）

3rd ステージ（中2～中3）

新たなことに挑戦し、チームで働く子どもたち

- ◆ 自らの適性を知り、夢や希望の実現に向け、考え・決定し・行動する能力の育成
- ◆ 他者と協働しながら新たなものを創造する力の育成
- ◆ 世界の一員として誰からも頼られ、誰ともつながる心を大切に育てる心の育成

【図 2：3rd ステージにおける「目指す子ども像」】

③ 「目指す子ども像」の実現に向けた取組

- ・ 「目指す子ども像」の実現に向けて、各教科等において育成する資質・能力を明確にした年間指導計画を作成するとともに、児童生徒の実態に応じて修正を行い、指導の改善・充実を図った。（表 1）

岩見沢市立栗沢小・中学校の栗沢っ子に身に付けさせたい英語の力

【各学年、ステージの目標】

	1st(3, 4年生)	2nd(5, 6, 7年生)	3rd(7, 8, 9年生)
外国語目標	聞くこと、話すことの言語活動を通して慣れ親しむ。	聞くこと、話すことを充実させる。読む、書く、の言語活動も加わる。	聞くこと、読むこと、話すこと、書く事をバランス良く育て、表現したり伝え合ったりと活用する。
知識技能	英語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。	読むこと、書くことに慣れ親しむ。聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。	基本的な技能を身に付ける。
思考力・判断力・表現力	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして伝え合う力の基盤を築く。	身近で簡単な事柄について聞いたり話したりすることに加え、読むこと、書くことと関連させて伝え合うことができる基礎的な力を養う。	日常的な話題や社会的な話題について理解したり、外国語を用いて表現したり伝え合ったりすることができるようになる。
学びに向かう力・人間性	相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	関心・読解力、話し手、書き手、聞き手、読み手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

【表 1：9年間を見通した英語の指導計画（一部抜粋）】

3 成果と今後の取組

○ 成果

- ・ 子ども・保護者・地域住民の視点で、小中一貫教育の基本理念を策定したことにより、地域の思いや願いを踏まえた「目指す子ども像」を設定することができた。
- ・ 学年段階を3つのステージに区切り、それぞれの段階における「目指す子ども像」を具体的に設定したことにより、教職員間で課題意識を共有することにつながり、円滑な接続に向けた取組を強化することができた。

○ 今後の取組

- ・ 学校運営協議会や地域学校協働本部など、既存組織との連携を一層深め、地域全体で「目指す子ども像」を実現できるよう、小中一貫教育を推進していく。

9年間を通じた指導計画の作成

に向けた取組の工夫

〔釧路市〕阿寒湖義務教育学校の取組

○ 工夫のポイント

- ① 「目指す子どもの姿」の共有
- ② 9年間を見通した指導計画の工夫
- ③ マネジメントサイクルに基づく指導計画の改善・充実

- ・学校名（児童生徒数）
釧路市立阿寒湖義務教育学校
- 前期課程（45人）
○後期課程（25人）
- ・設置状況（設置時期）
義務教育学校（令和3年4月）
- ・施設形態（学年段階の区切り）
施設一体型（4－3－2）

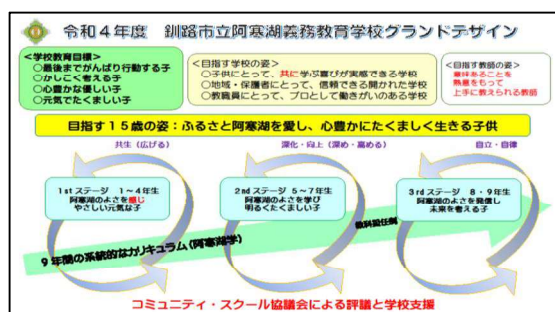


阿寒湖義務教育学校

取組の工夫の実際

① 「目指す子どもの姿」の共有

- ・「目指す15歳の姿」の実現に向けて、学校のグランドデザインに学年段階の区切り（ステージ）ごとの「目指す子どもの姿」を位置付けるとともに、実現に向けた具体的な方策について、全教職員で共通理解を図った。（図1、表1）



【図1：グランドデザイン】

② 9年間を見通した指導計画の工夫

- ・教科担任制や乗り入れ指導を通して把握した児童生徒の実態を踏まえ、学習のねらいや学習内容に応じて単元を入れ替えるなど、学びの系統性・連続性を意識した年間指導計画を作成した。

釧路市立阿寒湖義務教育学校 学校教育目標と目指す子供の姿と方策

	＜1stステージ＞ 阿寒湖のよさを知り、やさしい元気な子 共生	＜2ndステージ＞ 阿寒湖のよさを学び、明るくたくましい子 深化・向上	＜3rdステージ＞ 阿寒湖のよさを発信し、未来を創る子 自立・自律
行動する子	●善悪の判断をし、よいと思うことを選んで行う。 ●自分がやるべき勉強や仕事は、苦手なことでも最後まで行う。 ○生徒指導の機能を生かした授業による自己指導能力の育成 ○実態把握に基づいた、打って出るアプローチによる不登校対策	●正しいと判断したこと、自信をもって行う。 ●自分が決めた目標に向かって、最後まで粘り強く取り組む。 ○生徒指導の機能を生かした授業による自己指導能力の育成 ○実態把握に基づいた、打って出るアプローチによる不登校対策	●自律的に判断し、責任のある行動をする。 ●より高い目標を立て、困難があってもくじけずに努力してやり抜く。
かっこよく考える子	●やりたいことに進んで取り組んだり、工夫して取り組んだりして、自分なりの考えをもつ。 ●取り組んだことや考え、わけなどを表現する。	●自分に合った段階でできる課題を見付け、様々な方法で追究し、自分なりの結論を見いだす。 ●目的意識や相手意識をもって取り組み、自分なりの考えを表現する。	●より価値や意味のある課題を見いだし、見通しをもって追究し、多面的・多角的に考える。 ●自己の学びを、自分らしく、論理的に表現する。

【表1：ステージごとの「目指す子どもの姿」と実現に向けた方策】

③ マネジメントサイクルに基づく指導計画の改善・充実

- ・学力向上の取組の成果を検証するため、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等、各種調査の結果分析を基に、繰り返し指導するポイントや重点的に指導する単元を整理し、指導計画の改善に生かせるようにした。
- ・独自教科である「阿寒湖学」については、児童生徒が各教科等で学習していることの意味やよさを実感できるよう、各教科等の学習活動との関連を全教職員で明らかにし、指導計画の見直しを行った。

学年	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
6	先住民としてのアイヌの人たちの歴史や文化の継承の実態について理解している。	他地域のアイヌの人たちの文化の継承や情報発信について、 見通しをもって手段を選択して調べ、集めた情報を整理、分析し、分かりやすく表現している。	これまでの学習を基に、他地域のアイヌの人たちの文化の継承や情報発信についても興味・関心をもち、主体的に調べようとしている。
7	アイヌの人たちの伝統芸能（文化）としての歌（意味や発声方法）や楽器（用途や演奏方法）について理解するとともに、演奏技能を高めるとともに、継承する重要性を理解している。	アイヌの人たちの伝統芸能（文化）としての歌（意味や発声方法）や楽器（用途や演奏方法）について見通しをもって調べ、集めた情報を整理したり、保護・継承するための方法について考え、 分かりやすく表現したりしている。	アイヌの人たちの歌（芸術）や楽器を用いて、積極的に学年やほかの学年・科の授業に積極的に取り組み、それらを継承する活動に参画しようとしている。
8	アイヌの人たちの文化（芸術）の歴史や現状、継承の重要性について理解するとともに、基本的な表現技能を身に付けている。	アイヌの人たちの文化（芸術）の歴史や現状について見通しをもって調べ、集めた情報を整理したり、保護・継承するための方法について考え、 分かりやすく表現したりしている。	アイヌの人たちの文化（芸術）の歴史や現状について、それらを保護・継承する活動に参画しようとしている。
9	基本的な表現技能を高めるとともに、アイヌの人たちの文化の保護・継承と発展に必要となる、民力してきた人々の物語について理解している。	アイヌの人たちの文化について学習してきた情報を整理し、保護・継承、発展するための方法について考え、 分かりやすく表現している。	これまで学習してきたアイヌの人たちの文化について、保護・継承、発展する活動に参画しようとしている。

（表2）

【表2：改善を朱書きした「阿寒湖学」の指導計画】

○ 成果

- ・学習内容に応じて単元を入れ替えるなど、学びの系統性・連続性を意識した指導を行ったことにより、児童生徒の理解が深まり、興味や関心の高まりも見られた。

○ 今後の取組

- ・独自教科の「阿寒湖学」では、児童生徒が各教科等で身に付けた資質・能力を十分に発揮することができるよう、年間指導計画を基に、各教科等の学習活動との関連を意識しながら指導していく必要がある。

教科担任制や乗り入れ指導の実施

に向けた取組の工夫

〔富良野市〕樹海学校の取組

○ 工夫のポイント

- ① 前・後期課程で統一した日課表の作成
- ② 専門性を生かした教科担任制と乗り入れ指導
- ③ 複式授業におけるＴＴ指導の工夫

- ・学校名（児童生徒数）
富良野市立樹海学校
- 前期課程（23人）
- 後期課程（10人）
- ・設置状況（設置時期）
義務教育学校（令和4年4月）
- ・施設形態（学年段階の区切り）
施設一体型（4－3－2）



樹海学校

取組の工夫の実際

① 前・後期課程で統一した日課表の作成

- ・教科担任制による指導を円滑に行うことができるよう、前期課程の1単位時間を50分とし、後期課程と日課表を統一するとともに、前期課程は児童の実態を踏まえ、最後の5分間を本時の学習を振り返る時間等に充て、学習内容の整理や定着を図った。（表1）

時間	曜日	月	火	水	木	金
8:05（登校）～8:20	体力作り 朝学習 体力作り フラッシュカード 朝読書 体力作り					
8:20～8:30	朝の会					
8:30～9:20 (9:15～9:20)	1校時					
9:30～10:20 (10:15～10:20)	2校時					
10:30～10:35	中 休 み					
10:35～11:25 (11:20～11:25)	3校時					
11:30～12:20 (12:20～12:25)	4校時					
12:25～13:00	給 食 時 間					
13:00～13:15	放課準備	縦割り班 準備	読書	放課準備	縦割り班 準備	
13:15～13:30	昼休み／帰りの会（4時間授業の日～13:25）					
13:30～14:20 (14:15～14:20)	5校時					
14:20～14:30	帰りの会（5時間授業・クラブ・委員会の日）					
14:30～15:20 (15:15～15:20)	6校時					
15:20～15:30	※クラブ・委員会の日、14:35～15:30 帰りの会（6時間授業の日）					

【表1：統一した日課表】

② 専門性を生かした教科担任制と乗り入れ指導

- ・義務教育学校の特性を生かし、前期課程の第5、第6学年の4教科（社会科、理科、体育科、外国語科）では、後期課程の教員による教科担任制を、後期課程の3教科（音楽科、技術・家庭科、美術科）では、前期課程の教員による乗り入れ指導を実施するなど、専門性の高い教員による指導の充実を図った。（表2）

	5年生	6年生
国 語	学級担任	学級担任
社 会	教科担任	教科担任
算 数	学級担任	学級担任
理 科	学級担任	教科担任
音 楽	教科担任	教科担任
図 工	教科担任	教科担任
体 育	教科担任	教科担任
家 庭	学級担任	学級担任
外国語	教科担任	教科担任

【表2：教科担当者】

③ 複式授業におけるＴＴ指導の工夫

- ・前期課程の国語科、算数科を中心に、一人一人の児童の実態に応じた、きめ細かな指導を行えるよう、後期課程の教員がＴ２として学習指導を担当した。
- ・ＴＴ指導を通して、児童生徒のつまづきを把握し、効果的な指導方法等について、意見交換を行うなど、指導の改善・充実を図った。（表3）

○→教科担任制 単→複式学級を分けて単学級指導 TT→複数の教員による指導

	国語	社会	算数	理科	音楽	図・美	体育	技術	家庭	外国語
9年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6年	複式	単○	複式	単○	○	複式○	○	○	単	単○
5年	(TT)	単○	(TT)	単	○			○	単	単○
4年	複式	単○	複式	単	○	(TT)	複式			単○
3年	(TT)	単	(TT)	単	○	複式○				単○
2年	複式		複式		○	複式	複式			
1年	(TT)		(TT)		○	(TT)				

【表3：複式授業におけるＴＴの計画】

3 成果と今後の取組

○ 成果

- ・教科担任制や乗り入れ指導を実施したことにより、多面的に児童生徒を理解することにつながり、その後の学習指導や生徒指導に生かすことができた。
- ・後期課程の教員がＴ２として学習指導を担当したことにより、より質の高い授業を行うことができた。

○ 今後の取組

- ・複式授業におけるＴ１とＴ２との連携の強化を図り、効果的な学習支援を検証していく。